

## 子安増生教授 略歴

氏名 子安増生（こやすますお）  
 生年月日 1950年11月16日  
 出生地 京都府京都市  
 学歴・職歴等



年月日	学歴
1969年4月1日	京都大学教育学部 入学
1973年3月24日	京都大学教育学部 卒業
1973年4月1日	京都大学大学院教育学研究科修士課程 入学
1975年3月24日	京都大学大学院教育学研究科修士課程 修了
1975年4月1日	京都大学大学院教育学研究科博士課程 入学
1977年7月31日	京都大学大学院教育学研究科博士課程 退学
1997年3月24日	博士（教育学）；京都大学論教博第72号 「心のモジュール説による幼児期の〈心の理解〉の研究」

年月日	職歴
1977年8月1日	愛知教育大学助手 教育学部
1982年1月16日	愛知教育大学助教授 教育学部
1988年4月1日	京都大学助教授 教育学部
1997年12月1日	京都大学教授 教育学部
1998年4月1日	京都大学教授 大学院教育学研究科（大学院重点化に伴う変更）
2014年4月1日	京都大学大学院教育学研究科長・教育学部長（～2016年3月31日）
2016年3月31日	京都大学定年退職
2016年4月1日	京都大学名誉教授，甲南大学特任教授 文学部人間科学科 現在に至る

### 在外研究

1994年3月～1995年1月 文部省在外研究員（長期）；連合王国，アメリカ合衆国へ出張  
 1996年3月～5月 文部省在外研究員（海外研究開発動向調査）；連合王国へ出張

### その他の研究活動

平成19年度～23年度 文部科学省グローバル COE プログラム「心が活きる教育のための国際的拠点」プロジェクトリーダー

### 資格

1996年12月21日 日本心理学会認定心理士（第1683号）  
 2009年4月1日 臨床発達心理士（第2244号）

### 所属学会

日本心理学会，日本教育心理学会，日本発達心理学会，関西心理学会，日本認知科学会，国際教育学会，American Psychological Association の各正会員

## 学 会 等 役 職

- 1997年4月 Psychologia 編集長 (～2003年3月)  
2007年4月 大学基準協会大学評価委員会副委員長 (～2009年3月)  
2008年4月 日本発達心理学会理事長 (～2014年3月；2013年7月一般社団法人化に伴い代表理事に変更)  
2008年4月 臨床発達心理士認定運営機構理事長 (～2011年3月)  
2008年10月 日本学術会議連携会員 (～2014年9月)  
2011年7月 日本心理学諸学会連合理事長 (～2013年6月)  
2013年4月 一般財団法人日本心理研修センター副理事長, 業務執行理事 (～現在に至る)  
2014年4月 Psychologia Society 会長 (～2020年3月)  
2015年7月 一般社団法人日本心理学諸学会連合理事長 (～2018年6月)

## 社 会 的 貢 献

- 平成14年度 NHK 放送文化研究所「子どもに良い放送」プロジェクト」共同研究者 (～現在に至る)  
平成19年度 読売新聞大阪本社主宰「よみうり子育て応援団大賞」選考委員及び同選考委員長 (平成26年度～現在に至る)

## 集 中 講 義

高知大学教育学部 (平成4年度), 九州大学教育学部 (平成4年度), 広島大学教育学部 (平成6年度), 都立大学人文学部 (平成9年度), 名古屋大学教育学部 (平成10年度), 東京大学大学院教育学研究科 (平成10年度), お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 (平成11年度), 立命館大学大学院文学研究科 (平成12年度), 兵庫教育大学大学院教育学研究科 (平成13年度), 鹿児島大学教育学部 (平成14年度), 東北大学大学院教育学研究科 (平成21年度)

## 子安増生教授 業績一覧

※(1) 甲南大学着任以前については、著書は単著・共著・編著のみ記載、学術論文は主要な単著および第一著者のもの、ならびに査読付き学会誌論文を記載。訳書は単独訳のみ記載。(2) 2016年4月の甲南大学着任後は、著書および学術論文はすべて記載。(3) 総説と学会等発表（国内、海外）は、すべての期間の発表件数のみを末尾「6. 業績総数」に記載。

### 1. 著書

- 岩井勇児・子安増生（1980）. 個人差の心理学. 黎明書房.
- 子安増生（1987）. 幼児にもわかるコンピュータ教育—LOGO プログラミングの学習. 福村出版（全230ページ）.
- 芳賀純・子安増生編（1990）. メタファーの心理学. 誠信書房.
- 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（1992）. ベーシック現代心理学6 教育心理学. 有斐閣.
- 子安増生編（1992）. キーワードコレクション 発達心理学. 新曜社.
- 子安増生・山田富美雄編（1994）. ニューメディア時代の子どもたち. 有斐閣.
- 子安増生（1996）. 生涯発達心理学のすすめ—人生の四季を考える. 有斐閣（全215ページ）.
- 子安増生（1997）. 子どもが心を理解するとき. 金子書房（全206ページ）.
- 子安増生（1999）. 幼児期の他者理解の発達—心のモジュール説による心理学的検討. 京都大学学術出版会（全331ページ）.
- 子安増生（2000）. 心の理論—心を読む心の科学. 岩波書店（全134ページ）.
- 子安増生・服部敬子・郷式徹（2000）. 幼児が「心」に出会うとき—発達心理学から見た縦割り保育. 有斐閣.
- 和田秀樹・子安増生（2002）. 親しかできない、子どもを賢くする方法. 小学館.
- 田島信元・子安増生・森永良子・菅野敦編（2002）. 認知発達とその支援. ミネルヴァ書房.
- 下山晴彦・子安増生編（2002）. 心理学の新しいかたち. 誠信書房.
- 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（2003）. [新版] 教育心理学. 有斐閣.
- 子安増生・二宮克美編（2004）. キーワードコレクション 発達心理学 [改訂版]. 新曜社.
- 子安増生編（2005）. 芸術心理学の新しいかたち. 誠信書房.
- 子安増生編（2005）. よくわかる 認知発達とその支援. ミネルヴァ書房.
- 二宮克美・子安増生編（2006）. キーワードコレクション パーソナリティ心理学. 新曜社.
- 子安増生・西村和雄編（2007）. 経済心理学のすすめ. 有斐閣.
- 子安増生・二宮克美編（2008）. キーワードコレクション 心理学フロンティア. 新曜社.
- 二宮克美・子安増生編（2009）. キーワードコレクション 教育心理学. 新曜社.
- 子安増生編（2009）. 心が活きる教育に向かって—幸福感を紡ぐ心理学・教育学. ナカニシヤ出版.
- 子安増生編（2011）. 新訂 発達心理学特論. 放送大学教育振興協会.
- 子安増生・白井利明編（2011）. 発達心理学ハンドブック3 時間と人間. 新曜社.
- 二宮克美・子安増生編（2011）. キーワードコレクション 社会心理学. 新曜社.
- 子安増生・大平英樹編（2011）. ミラーニューロンと〈心の理論〉. 新曜社.
- 子安増生・二宮克美編（2011）. キーワードコレクション 認知心理学. 新曜社.
- 楠見孝・子安増生・道田泰司編（2011）. 批判的思考力を育む—学士力と社会人基礎力の基盤形成. 有斐閣.
- 無藤隆・子安増生編（2011）. 発達心理学Ⅰ. 東京大学出版会.
- 子安増生・杉本均編（2012）. 幸福感を紡ぐ人間関係と教育. ナカニシヤ出版.
- 無藤隆・子安増生編（2013）. 発達心理学Ⅱ. 東京大学出版会.
- 子安増生・仲真紀子編（2014）. 心が育つ環境をつくる—発達心理学からの提言. 新曜社.

- 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 (2015). 教育心理学 [第3版]. 有斐閣.  
 子安増生編 (2016). 「心の理論」から学ぶ発達的基础—教育・保育・自閉症理解への道. ミネルヴァ書房.  
 子安増生・郷式徹編 (2016). 心の理論—第2世代の研究へ. 新曜社.  
 子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗編 (2016). 教育認知心理学の展望. ナカニシヤ出版.

\*\*\* 甲南大学着任後 \*\*\*

- 子安増生編 (2016). アカデミック・ナビ 心理学. 勁草書房.  
 子安増生・明和政子編 (2017). 新・教職教養シリーズ第9巻 発達と学習. 協同出版.  
 子安増生・丹野義彦編 (2017). 公認心理師エッセンシャルズ. 有斐閣.  
 子安増生・丹野義彦編 (2019). 公認心理師エッセンシャルズ 第2版. 有斐閣.  
 子安増生 (2019). 出題基準対応 公認心理師のための基礎心理学. 金芳堂 (全200ページ).

## 2. 学術論文

- Koyasu, M. (1976). A developmental study in hypothesis-testing processes during concept identification task: Pictorial versus verbal presentation. *Psychologia*, Vol. XIX, 139-148.
- 子安増生 (1977). 概念学習課題における仮説検証過程の研究—文献展望—. 京都大学教育学部紀要, 23, 185-196.
- 子安増生 (1979). 新訂京大 NX<sub>5</sub> 知能検査の項目分析. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 28, 109-122.
- 子安増生 (1979). 思考. 児童心理学の進歩, Vol. XVIII, 63-90.
- 子安増生・今栄国晴 (1980). 教育実習の現状と改善に関する全国教員養成大学・学部教官の意見調査 (続報). 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 29, 145-158.
- 子安増生 (1980). 児童における比例概念の発達過程 (1) 序論. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 4, 23-35.
- 子安増生 (1981). 青年期における形式的操作思考の研究—Siegler のルール・モデルによる天秤課題および確率課題の分析—. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 30, 123-136.
- 子安増生 (1981). 児童における比例概念の発達過程 (2) 天秤の均衡と確率について. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 5, 227-238.
- 子安増生 (1982). メタファの心理学的研究—その理論的および方法的検討—. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 31, 165-180.
- 子安増生・加藤元康 (1983). 含意理解の促進要因と妨害要因—マッチング・バイアス仮説と洞察モデルの実験的検証—. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 32, 163-181.
- 子安増生 (1983). 幼児および年少児童の数の理解—subitizing と counting の問題を中心に—. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 7, 85-92.
- 子安増生 (1984). 含意理解の促進要因としての「現実的条件」の効果の実証的再検討. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 33, 147-164.
- 子安増生・石田淳一 (1984). 小学1年生の算数文章題の解決に影響する要因について—意味タイプ, 数の大きさ, 操作活動の効果の検討. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 8, 103-110.
- 子安増生 (1985). 知能検査のコンピュータ化に関する基礎開発的研究—京大 NX<sub>5</sub> 知能検査のマトリックスと符号交換を材料として—. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 34, 175-191.
- 子安増生 (1986). メタファの表現効果に関する心理学的研究—効果的表現と婉曲的表現の比較—愛知教育大学研究報告 [教育科学], 35, 137-153.
- 子安増生 (1986). 子どものコンピュータ・リテラシーの教育—LOGO プログラミングの学習を中心に—. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 10, 201-211.
- 子安増生 (1986). 教授・学習研究の動向—コンピュータ教育を中心に—. 教育心理学年報, 25, 98-106.
- 子安増生 (1987). 幼児の速度認知の発達に関する実験的研究. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], 36, 139-147.

- 子安増生・坂爪ひとみ (1987). 小学生およびその両親のテレビ・ゲーム利用に関する実態ならびに意識調査. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **11**, 1-12.
- 子安増生 (1988). 自己の名前に関する意識調査—女子大学生の姓名観—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **37**, 143-159.
- 子安増生 (1988). コンピュータ教育における児童のキーボード入力に関する一考察. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **12**, 57-69.
- 子安増生 (1989). 社会的知能の研究—文献展望—. 京都大学教育学部紀要, **35**, 134-153.
- 子安増生 (1990). 幼児の空間的自己中心性 (I) —Piaget の 3 つの山問題とその追試研究—. 京都大学教育学部紀要, **36**, 81-114.
- 子安増生 (1991). 幼児の空間的自己中心性 (II) —Piaget の 3 つの山問題の関連実験と理論的考察—京都大学教育学部紀要, **37**, 124-154.
- 子安増生 (1991). コンピュータ教育. 児童心理学の進歩, **Vol. XXX**, 207-227.
- 子安増生・菊池聡 (1993). 空間関係の認知に及ぼす映像情報の提示様式の効果—実物とビデオとコンピュータ・グラフィックスの比較. 京都大学教育学部紀要, **39**, 22-41.
- 子安増生 (1994). 大学の教養教育における文科系—理科系の区分のあり方について. 京都大学教育学部紀要, **40**, 130-151.
- 子安増生 (1995). 英国における高等教育教授システムについて. 京都大学高等教育研究, **1**, 46-53.
- 子安増生 (1996). イギリスの発達心理学の歴史と現状. 京都大学教育学部紀要, **42**, 24-52.
- 子安増生・藤田哲也 (1996). ティーチング・アシスタント制度の現状と問題点—教育学部教育心理学科のケース. 京都大学高等教育研究, **2**, 77-83.
- 子安増生・木下孝司 (1997). 〈心の理論〉研究の展望. 心理学研究, **68**, 51-67.
- 子安増生 (1997). 幼児の「心の理論」の発達—心の表象と写真の表象の比較. 心理学評論, **40**, 97-109.
- Koyasu, M. (1997). Can visual feedback effect perspective-taking behavior in young children? *Psychologia*, **40**, 91-103.
- 子安増生・西垣順子・服部敬子 (1998). 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査. 京都大学教育学部紀要, **44**, 1-23.
- 子安増生 (1998). 大学院における遠隔個別指導について. 京都大学高等教育研究, **4**, 82-88.
- 子安増生 (1999). 情報化社会における子どもの心理発達の変異と異変. 教育学研究, **66**, 68-69.
- 子安増生・服部敬子 (1999). 幼児の交互交代と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **45**, 1-16.
- 子安増生・服部敬子・郷式徹 (2000). 「心の理論」獲得前後の他者の心の理解過程—事例分析による検討. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **46**, 1-25.
- Furnham, A., Ota, H., Hosoe, T., & Koyasu, M. (2000). Beliefs about overcoming psychological problems among British and Japanese students. *Journal of Social Psychology*, **140**, 63-74.
- 子安増生・郷式徹・中村素典 (2000). 教育学部学生の情報リテラシー教育の最適化に関する研究 (I): 入学直後から3カ月後への変化. 京都大学高等教育研究, **6**, 82-88.
- 子安増生 (2001). 多重知能理論からみた近年の教育改革批判. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **47**, 28-50.
- Cox, M.V., Koyasu, M., Hiranuma, H., & Perara, J. (2001). Children's human figure drawings in the UK and Japan: The effects of age, sex, and culture. *British Journal of Developmental Psychology*, **19**, 275-292.
- 子安増生・林創・郷式徹・中村素典 (2001). 教育学部学生の情報リテラシーの最適化に関する研究 (II): 最終回までに学生が獲得したこと. 京都大学高等教育研究, **7**, 131-143.
- 子安増生・鈴木重由美 (2002). 幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **48**, 63-83.
- 子安増生・郷式徹・服部敬子 (2003). 縦割り保育の幼稚園における「心の理論」および関連する能力の縦断的

- 研究. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **49**, 1-21.
- 子安増生・橋本京子 (2003). 大学進学動機とポジティブな自己信念が大学生活におけるストレス対処に及ぼす影響. 京都大学高等教育研究, **9**, 13-22.
- 子安増生・龍輪飛鳥 (2004). 運動図形に対する心的状態の付与に及ぼす図形の種類と運動パターンの効果. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **50**, 1-21.
- 安藤花恵・子安増生 (2004). 演劇経験の有無による味覚表情の表出ならびに演技の差異. 認知科学, **11**, 61-74.
- 子安増生 (2004). 心の理論. 小児科臨床, **57**, 1243-1248.
- 鈴木重由美・子安増生・安寧 (2004). 幼児の意図理解と社会的問題解決能力の発達: 「心の理論」との関連から. 発達心理学研究, **15**, 292-301.
- 子安増生・森本裕子・林創 (2005). 利害葛藤のない場面において互酬性の期待が順社会的行動に及ぼす影響—繰り返し二者間囚人のジレンマゲームを用いて. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **51**, 1-17.
- 子安増生 (2005). 「心の理論」からみたコミュニケーション. 作業療法ジャーナル, **39**(9), 880-885.
- 子安増生・西垣順子 (2006). 小学生における物語文の読解パターンと「心の理論」の関連性. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **52**, 47-64.
- Manalo, E., Koyasu, M., Hashimoto, K., & Miyauchi, T. (2006). Factors that impact on the academic motivation of the Japanese University students in Japan and in New Zealand. *Psychologia*, **49**, 114-131.
- 子安増生 (2006). 幼児教育の現場におけるパーティシペーション. 心理学評論, **49**, 419-430.
- 子安増生・郷式徹 (2007). 大学生における両親の期待度とその実現度の認知の比較. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **53**, 1-12.
- Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2007). Young children's understanding of another's apparent crying and its relationship to theory of mind. *Psychologia*, **50**, 291-307.
- 小川絢子・子安増生 (2008). 幼児における「心の理論」と実行機能の関連性: ワーキングメモリと葛藤抑制を中心に. 発達心理学研究, **19**, 171-182.
- 溝川藍・子安増生 (2008). 児童期における見かけの泣きの発達: 二次的誤信念の理解との関連の検討. 発達心理学研究, **19**, 209-220.
- Koyasu, M. (2009). Young children's development of understanding self, other, and language. *Kyoto University Research Studies in Education*, **55**, 1-13.
- 子安増生 (2009). 発達心理学から見た望ましいカリキュラムと教育評価, クオリティ・エデュケーション (国際教育学会), **2**, 59-77.
- 楠見孝・中本敬子・子安増生 (2010). 痛みの比喻表現の身体感覚と認知の構造. 心理学研究, **80**, 467-475.
- 小川絢子・子安増生 (2010). 幼児期における他者の誤信念に基づく行動への理由づけと実行機能の関連性. 発達心理学研究, **21**, 232-243.
- 橋本京子・子安増生 (2011). 楽観性とポジティブ志向および主観的幸福感の関連について. パーソナリティ研究, **19**, 233-244.
- 溝川藍・子安増生 (2011). 5, 6歳児における誤信念及び隠された感情の理解と園での社会的相互作用の関連. 発達心理学研究, **22**, 168-178.
- Hashimoto, K., & Koyasu, M. (2012). Influences of optimism and positive orientation on students' subjective well-being. *Psychologia*, **55**, 45-59.
- Koyasu, M. (2012). Economics, psychology, and happiness. *Kyoto University Research Studies in Education*, **58**, 71-82.
- 古見文一・子安増生 (2012). ロールプレイ体験がマインドリーディングの活性化に及ぼす効果. 心理学研究, **83**, 18-26.
- 子安増生・楠見孝・Moises Kirk de Carvalho Filho・橋本京子・藤田和生・鈴木晶子・大山泰宏・Carl Becker・内田由紀子・David Dalsky・Ruprecht Mattig・櫻井里穂・小島隆次 (2012). 幸福感の国際比較研究

- 13カ国のデータ. 心理学評論, **55**, 75-89.
- 橋本京子・子安増生 (2012). 楽観性とポジティブ志向が幸福感に及ぼす影響. 心理学評論, **55**, 178-190.
- 野崎優樹・子安増生 (2013). 大学入試に対する認知的評価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果. パーソナリティ研究, **21**, 231-243.
- Furumi, F., & Koyasu, M. (2013). Role-play experience facilitates reading the mind of individuals with different perception. *PLoS ONE*, **8(9)**, e74899. doi:10.1371/journal.pone.0074899
- Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). The Relationship between trait emotional intelligence and interaction with ostracized others' retaliation. *PLoS ONE*, **8(10)**, e77579. doi:10.1371/journal.pone.0077579
- Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). Effects of emotional intelligence on inhibiting retaliation for ostracism in Cyberball. *Psychologia*, **56**, 167-178.
- Manalo, E., Kusumi, T., Koyasu, M., Michita, Y., & Tanaka, Y. (2013). To what extent do culture-related factors influence university students' critical thinking use? *Thinking Skills and Creativity*, **10**, 121-132.
- 子安増生 (2013). エビデンスを介した研究と実践の循環性. 発達心理学研究, **24**, 426-428.
- Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2013). Young children's moral judgments about pretend crying: Associations with mental-state understanding. *Psychologia*, **56**, 223-236.
- Hughes, C., Devine, R. T., Ensor, R., Koyasu, M., Mizokawa, A., & Lecce, S. (2014). Lost in translation? Comparing British, Japanese, and Italian children's theory-of-mind performance. *Child Development Research*, Volume 2014, Article ID 893492, 10 pages. doi.org/10.1155/2014/893492.
- Furumi, F., & Koyasu, M. (2014). Role-play facilitates children's mind reading of those with atypical color perception. *Frontiers in Psychology*, 5:817. doi:10.3389/fpsyg.2014.00817
- Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2014). Digging deeper into the link between socio-cognitive ability and social relationships. *British Journal of Developmental Psychology*, **33**, 21-23. doi:10.1111/bjdp.12072
- Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2015). Interpersonal emotional intelligence reduces the gap in anger regulation confidence caused by self-other dissimilarity. *Psychologia*, **58**, 49-60.
- Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2015). Can we apply an emotional competence measure to an eastern population? Psychometric properties of the Profile of Emotional Competence in a Japanese population. *Assessment*, **23(1)**, 112-123.
- 野崎優樹・子安増生 (2015). 情動コンピテンスプロフィール日本語短縮版の作成. 心理学研究, **86**, 160-169.
- Yanaoka, K., & Koyasu, M. (2015). Young children's understanding of the generality of their kindergarten script: Effects of theory of mind. *Psychologia*, **58**, 202-219.
- 野崎優樹・子安増生 (2016). 非専門家からみた多重知能理論内での情動コンピテンスの位置づけ. 心理学研究, **86**, 160-169. doi.org/10.4992/jjpsy.86.14064
- 溝川藍・子安増生 (2016). 他者理解と共感性の発達. 心理学評論, **58(3)**, 355-366.
- 子安増生・野崎優樹 (2016). 人口学リテラシー尺度の開発と分析. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **62**, 1-21.

\*\*\* 甲南大学着任後 \*\*\*

- Komeda, H., Osanai, H., Yanaoka, Y., Okamoto, Y., Fujioka, T., Arai, S., Inohara, K., Koyasu, M., Kusumi, T., Takiguchi, S., Kawatani, M., Kumazaki, H., Hiratani, H., Tomoda, A., & Kosaka, H. (2016). Decision making processes based on social conventional rules in early adolescents with and without autism spectrum disorders. *Scientific Reports*, **6**, Article number: 37875(2016), doi:10.1038/srep37875
- 後藤崇志・川口秀樹・野々宮英二・市村賢士郎・楠見孝・子安増生 (2017). 自律的動機づけと動機づけ調整方略の双方向的関係. 心理学研究, **88(2)**, 197-202.
- 子安増生 (2017). 公認心理師に求められる資質. 最新精神医学, **22(4)**, 309-316.

溝川藍・子安増生 (2017). 青年期・成人期における共感性, 情動コンピテンスと道徳性の関連. 教育心理学研究, **65**(3), 361-374.

子安増生 (2019). 公認心理師制度の理解と発展に向けて. 神戸学院大学心理学研究, **1**(2), 75-88.

溝川藍・子安増生 (2020). 国際経験と批判的思考態度が法・道徳意識に及ぼす影響. 心理学研究, **90**(6), 562-571.

檜原潤・坂本真士・正木郁太郎・子安増生 (2020). 教育心理学の応用可能性を考える—社会・臨床心理学の基礎研究を題材として—. 教育心理学年報, **59**, 274-283.

### 3. 翻 訳

Sigel, I. & Cocking, R. (1977). *Cognitive development from childhood to adolescence: A constructivist perspective*. New York: Holt, Rinehart, & Winston. シーゲル&コッキング著・子安増生訳, 認知の発達: 乳児期から青年期まで, サイエンス社, 1983. (全291ページ).

Cox, M.V. (1992). *Children's drawings*. London: Penguin Books. コックス著・子安増生訳, 子どもの絵と心の発達. 有斐閣, 1999. (全318ページ).

Cohen, D. (2004). *Psychologists on psychology*. London: Hodder & Stoughton. コーエン著・子安増生監訳・三宅真季子訳, 心理学者, 心理学を語る. 新曜社, 2008. (全504ページ).

### 5. 辞典類

中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榊算男・立花政夫・箱田裕司編 (1999). 心理学辞典. 有斐閣.

子安増生・丹野義彦・箱田裕司編 (2021). 有斐閣現代心理学辞典. 有斐閣.

### 6. 業績総数

著 書	117冊
学術論文	111編
総 説	81編
翻 訳	9冊
辞典類	14冊
学会発表 (国内)	186件
学会発表 (海外)	50件